

## 横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議 会議概要

■日 時 平成27年6月3日（水）13:30～15:30

■場 所 市役所3号館5階正庁

■出席者 【構成員】

玉村雅敏氏、豊田奈穂氏、澄川貞介氏、石坂颯都氏、原田絵里子氏、秋本義紀氏、太田議氏代理 鈴木軍次氏、菊池匡文氏代理 工藤幸久氏、櫻井和秀氏、菅隆氏、永津勝司氏、國重正雄氏、中西正人氏、小山巖也氏、中島栄一氏、峯村明彦氏、渡邊啓二氏、境賢二氏、村山伊知郎氏、森下浩行氏、吉田秀樹氏、伊藤智則氏、佐川展裕氏、平松廣司氏、篠原恭久氏、岡部伸康氏（以上26名）

【事務局】

上条政策推進部長、中野渉外担当部長、竹内財政部長、後藤健康部長、三守こども育成部長、秋本経済部長、松田観光担当部長、長島都市部長、大川原教育総務部長

都市政策研究所 古谷政策・自治基本条例担当課長、宮川課長補佐、加藤主任、鈴木主任

■欠席者 山西恒義氏（構成員）

■傍聴者 4名

■資料

- ・資料1 横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
- ・資料2 国の総合戦略における4つの基本目標と横須賀市総合計画との関係
- ・資料3 横須賀市都市イメージ創造発信アクションプラン（抜粋）
- ・資料4 横須賀市の将来人口推計（国の推計準拠）
- ・資料5 横須賀市の就業状況
- ・資料6 統計データでみる横須賀（vol.1）
- ・資料7 戦略の方向性の検討に向けた視点
- ・資料8 横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱
- ・資料9 横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議構成員名簿
- ・資料10 横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の会議の傍聴に関する要領
- ・参考資料1 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」パンフレット
- ・参考資料2 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」全体像

■議事内容

1. 市長あいさつ
2. 推進会議の位置付けについて
3. 構成員および事務局紹介
4. 座長および座長職務代理者の指名
5. 総合戦略の策定について
6. 横須賀市の現状についての共有
  - (1) 人口について
  - (2) 就業状況について
7. その他

13:30 開 会

1. 市長あいさつ

- ・本日はお忙しい中、お足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。
- ・全国的な課題でもあるが、本市の喫緊の課題として人口減少がある。平成 25 年には、転出超過が全国 1 位となってしまった。また、高齢化の中で自然減が進むことが予想される。人口減少社会にどのように立ち向かっていくかということを実際に考えなければいけない時代に突入したと言えると思う。
- ・国でも人口減少を最大の課題と捉え、総合戦略を策定した地域にはそれなりの分配をしていく姿勢が示された。今までも人口減少社会の到来は分かっていたが、真正面に取り組もうとしている現政権の姿勢を我々は高く評価しなければいけないし、共に取り組んでいかなければいけないと感じている。
- ・本市でも取り組みは行っているが、昨年、転出入の差は 1,772 人→899 人となった。取り組みが着実に効果は出てくるという成功体験をしている。さらに加速していくために、地方版総合戦略の策定、策定後の推進をしっかりと行っていかなければいけないと考えている。
- ・本会議に多くの方にご参画していただけることに心から感謝申し上げたい。「産官学金労言」という言葉に示されているように、できるだけ多くの関係者の参画が期待されているが、構成員となっていただく方を検討するに当たりさまざまな議論をした。本市ならではの布陣で臨もうということで、他の審議会等ではあまり馴染のない方々にもご参画いただいているところである。
- ・大人数なので、会議の中では皆さんにご満足いただけるようにご発言いただくことは難しいかもしれないが、書面など、さまざま意見を伝えることができる機会を用意していきたい。会議の中で発言できなかったとしても、それぞれのお立場で、今の横須賀市にこのようなものが求められている、これが足りない、これがあればもっと良くなるというようなご意見をいただければと思っている。
- ・国ではスピード感を持った取り組みを自治体に期待している。会議が単なるオーソライズのためだけのものではなく、皆さんのお立場からご意見をいただいていたかたちにしていくための会議にしていければと思う。よろしくお願いします。

2. 推進会議の位置付けについて

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

－資料 8・10 に基づき説明

3. 構成員および事務局自己紹介

各自、自己紹介

#### 4. 座長および座長職務代理者の指名

「横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱」第3条第2項に基づき、市長が玉村氏を座長に指名した。

(玉村氏)

- ・公共経営を専門としている。
- ・自治体ではさまざまな行政計画があるが、今回は「戦略」を策定する。日本の未来をつくるために、努力規定ではあるが、全自治体で何か考えてほしい、戦略として立案してほしい、長期的なビジョンを立てながら取り組んでほしいと言われている。
- ・横須賀の未来をつくる戦略ということだが、戦略なので、あれもこれもではなく的を絞ってここに向かうのだということを考えることがポイントになるかと思う。明確に言われているのは、エビデンス（根拠）を持って取り組むこと、さらに、KPIというカギとなる指標を掲げることである。ただ「人口を増やす」というような曖昧なものではなく、「こういう人たちにこういうかたちで横須賀を選んでもらう」「こういう働き方を増やす」というような指標を置き、横須賀、地域を挙げて進むための情報をまとめるものが総合戦略になるかと思う。
- ・「産官学金労言」と、多方面から皆さんが集まって戦略を練り、戦略は方向性を示すまでなので実践は市を挙げて取り組んでいく。市役所はもちろん、皆さんと一緒に取り組むことができると、横須賀の未来がより良い方向に進むだろうと考えている。ぜひ良い戦略を皆さんと描ければと思っている。

玉村座長が澄川氏を職務代理に指名した。

－市長退室

#### 5. 総合戦略の策定について

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

－資料1・2、参考資料1・2に基づき説明

(國重氏)

- ・県の状況について情報提供したい。県の地方創生推進会議が6月4日に開催される。公募委員4名を含む31名の委員で設置し、議論される。市長会や町村会などからも参加していただいているので、市町村の取り組みと連携させていただきたいと思っている。
- ・県の戦略もできる限り早い時期に策定することになっている。国の基本目標の「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」などの柱を基本に、県での議論が進むと思う。具体的な検討内容については情報提供させていただきたい。

#### 6. 横須賀市の現状についての共有

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

－資料3～6に基づき説明

(事務局：上条政策推進部長)

－資料7に基づき説明

(吉田氏)

- ・まず、第三次産業の増加という話があったが、戦後の横須賀の歴史を見ると製造業が中心になり人口が増えていたが、最近は第二次産業の製造業が撤退している。結果的に第三次産業はそれほど増えていないものの第二次産業が減ったから第三次産業が増えているような錯覚を起こしているという構図が基本ではないかと思う。
- ・資料3の8ページ(図表23)で、10年間で横須賀市は転入減になっていて、逗子市、葉山町は転入が増えている。一方、三浦市は平成12年の△15%から平成22年には△7%になっている。それぞれ要因は分析されているか。整理していただくとよいと思う。
- ・「ひと」を受け入れるためには宅地開発が重要な要素になっていると思う。資料6の13ページにある新設住宅着工数がこの10年間で急激に減り、それに合わせて人口も急激に減っていることを考えると、「ひと」に来てもらうことはよいが、受け入れるための取り組みが重要かと思う。
- ・資料3の17ページで、市民と市外の人々の横須賀のイメージの差は実感としてある。強くPRしていただくのがよいと思う。
- ・資料5で、学術研究関係・情報通信関係で市外からの通勤が多いという点について、当研究所でも市内に住んでいる人は少ない。そこをいかに定住させるかという取り組みが重要かと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・三浦市の状況は経年で要因の分析をしないといけないと思う。調べて提示できるようにしたい。その他の点についてもよく理解できた。

(村山氏)

- ・市内に住んで市内で勤めている人が多い、愛着を持っている人が多いということは、他の自治体から見れば羨ましいことかと思う。横須賀の強みかと思う。
- ・一方で、20歳代～40歳代の転入が少なく転出超過となっている点について、転出理由のアンケートなどは実施されているか。横浜市から研究所のある久里浜まで2時間近くかかり、これが長年続くとすればやはり辛い。例えば、都心に通勤される方が、本当は市内に住みたいが2時間を超える通勤は辛いので横浜市や比較的土地が安価なところへ移動されているという仮説も立てられるかと思う。アンケートなどを実施されていれば貴重な示唆が得られるかと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・2年前に、転出届を提出される方にアンケートをお願いしたことがあるが、よい統計データが得られていない。人生の節目、例えば子どもの入学や親の転勤などの要因が一番大きいということは分かっている。
- ・資料3の14ページは、横須賀市に住んでいてどのようなところに不満を持っているかを尋ねたものだが、図表29で「就業機会の多さ」に対する満足度が低く、働く場所が少ないと思われている。
- ・一方で、市内で働いている人が多いことから、就業する場があるという認識もあるが、自分が勤めたいところ、本当に満足できる就業先があるかどうかというところで不満を持っているのかもしれない。分析がまだ足りないところだと思う。

- ・他に、デパートやショッピングモールが充実していない、学童クラブが利用しにくい、産前・産後ケアや産院などが充実していないという指摘がされている。
- ・産前・産後ケアや産院については、5年前には確かに産院が不足していて市内で出産できなかった人もいたと思うが、現在はすべてのお子さんを市内で出産できるだけの産院（科）数と医師数を確保している。後追いではあるが政策を打ってきているという状況である。

(境氏)

- ・転入増に向けるためにはどうしたらよいかと考えると、30～40歳代の転入を増やす、ベッドタウン化するという意味では、その年代が嗜好する初等教育機関が少ないのではないかと思う。アンケートで「塾が少ない」などの回答があったが、教育機関は決して高い数値が出ていない。藤沢市などと比較してそのような印象を持たれているのではないかと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・その通りだと思う。よく理解できる。

(玉村座長)

- ・次回の子育て関係の議論にかかわってくるので関係のデータをお願いしたい。

(小山氏)

- ・マーケティング的な発想をすると、住むということはお客さんを呼ぶということなのでセグメントごとに対応しないといけない。北部地域にマンションが多く建設されていると思うので、市内のエリア別流入・流出の状況のデータがほしい。
- ・第1子の出産年齢が比較的若い、第3子の割合も結構高いということで、比較的早期に出産される女性が多いようだが、所得や学歴などと出産の関係、さらにそのエリアごとの特徴が分かると、どのエリアにどのような人を呼び込むのかということが見えるかと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・1点目はすぐに提示できると思う。2点目は提示できるかどうか調べてみたい。
- ・北部エリアの追浜地域への転入者のうち、市外からの転入者の割合が約6割、南下するに従って、田浦では4・5割、横須賀中央は3割という状況である。実質的な数字については提示したい。

(渡邊氏)

- ・横浜市と比較すると横須賀市は住みやすいと感じている。「ひと」は定住、「まち」は観光、集客、「しごと」は若い人の雇用をつくるということだったと思うが、税金の多寡や特徴など、他市と比較した分析データはあるか。

(玉村座長)

- ・実感しにくいところでもあると思うので、例えば税金や上下水道料金などさまざまデータで把握できるものがあれば議論のヒントになるかと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・ 詳細な資料はまた提供したいが、全体的な税金の状況から言えば、本市は地方交付税をもらっているんで、国が、横須賀市の規模でこういう年齢構成でこういう就業者が住んでいるとすれば、これぐらいのお金がかかるだろう、これぐらい税金が入ってくるだろうという理論値を作る。その差額で不足する場合は地方交付税として国税の一部が本市に配分されている。その収入を以て、収入と支出をなんとか合わせているという状況である。
- ・ 全国的に見れば、本市の地方交付税の比率はそれほど高くはない。多くの地方都市に比べると財政状況はそれほど悪くはないというのが国の横須賀市に対する見方だと思う。しかし、県内は裕福な団体が多いので、その中では財政が苦しい方だと思う。

(峯村氏)

- ・ 長年、横須賀中央を見ている限りにおいて、昼間の高齢者人口が多い。街を歩いてもお年寄りしかいない。本校に約2千人の学生がいるが、昼間は外に出ない。
- ・ 最近の横須賀中央は寂れてきている。確かに38階建てのマンション(ザ・タワー横須賀中央)はできるが、7割は市内の富裕層で、3割は都心の方から入ってくると聞いた。人口の流れ、昼間の人口がどのようになっているのか、特に横須賀中央について気になるところである。
- ・ 久里浜にスーパーや教習所などができて日常的なものを賄えるようになり、横須賀中央まで出てこないという傾向があるのではないかと感じている。
- ・ 大学では、葉山町はあれほど不便なのになぜ若い人たちは行くのだろうかとよく話をする。やはりブランド化が進んでいるのではないか、そういう点についても葉山町との比較をデータとして出してもらえるとよい。意識調査のようなものがもう少しあるとよい。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・ 昼間の人口については把握できると思うので、また調べて提供したい。
- ・ 分散化という点については私たちも同様に思っている。本市は人口が40万人いる。地方に行けば県庁所在地の人口が40万人というところはたくさんあるが、人口はそこに集中して、商業施設があつたりする。本市の場合は地勢的な特徴もあり、歴史的な経過の中で、追浜、横須賀中央、衣笠、久里浜という市街地があり、人口が分散化して、ご指摘のような傾向があることは理解している。これをどのようにしていくかについて、短期間で答えが出る話ではないかもしれないが、重要な課題だと認識しているので引き続き考えていかないといけないと思っている。

(吉田氏)

- ・ 当研究所に研修に来る人たちの中には、久里浜が横須賀の中心だと思っている人もいる。横須賀の中心は横須賀中央で、面白い居酒屋がたくさんあると話すが、横須賀中央は昔からそのようなところなので観光に特化してもよいのではないかと。
- ・ 情報通信業は若い人が多いが、市外から通勤している人が多い。その人たちに、横須賀に住むためにはどういう要望があるのか、なぜ横須賀に住まないのかということを知りたい。
- ・ 横須賀で就業しなくても他市で働いて横須賀に住んでもらうためには、葉山町や藤沢市などへの転入者に対して、もし横須賀市がこういうところだったら住むつもりはあったかなど、何が欠けていたかということを知りたい。

(玉村座長)

- ・ぜひそのような観点もヒントにさせていただければと思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・承知した。

(中西氏)

- ・海上自衛隊で市内に職場がある人は約7千人で、独身が多いが子どもを多く産む傾向があり、その家族を合わせると約2万人になるかと思う。横須賀で結婚して住む人は多いが、防衛大学校を出た幹部は市ヶ谷勤務も多く、朝の通勤は2時間弱かかる。座るためには5時台前半の電車に乗るなどの必要があり、夜は22時頃に市ヶ谷を出て睡眠時間は4時間位になってしまう。
- ・周囲の話では、JR線の湘南新宿ラインの開通や東急東横線とみなとみらい線の直通で戸塚や藤沢、中区小港町に家を購入したという人が多い。横須賀は住むと非常に良いところだということはよく分かるが、特に市外に通勤する人にとっては、資料3の19ページ「横須賀に居住しない理由」にある「職場から遠い、通勤が不便」に尽きると思う。湘南新宿ライン、東急東横線、つくばエクスプレスなどの沿線都市は人口が増えているのだろうと思う。
- ・住むと良いところだが、上り電車（朝の通勤）が不便ということをよく聞く。京浜急行の上りでウイング号があるといいと思う。交通手段に何らかの手を打ってもらえると転出にストップがかけられると思う。
- ・地方採用で横須賀に定住する人も結構多いので、その人たちに向けた施策があるとよい。
- ・軍港めぐりは年々お客さんが増えていて観光資源として使ってもらってありがたい。協力できることがあれば協力したい。

(櫻井氏)

- ・平日の下りは品川から着席保証の電車を走らせているが、朝は夕方と比較してピーク時間帯に限られた時間に重なることから、着席保証の電車を走らせることができる線路のキャパシティがなかった。お客様の減少に伴って線路容量に若干の余裕が出てきているので、中期的な課題として検討したいと思う。
- ・市内に大学があり、学生（若年層）がわざわざこのエリアに流入してくださっているが定着しないのはなぜか。そもそも学生がどこに住んでいるのか、転居元はどこか、もし市外から通学しているのであれば、卒業後に定着しているのかどうかなどのデータがあれば提供してもらいたい。
- ・もし若い人たちが定着していないのであれば、学生たちの声を聞くなどして、その理由も分析してみるはどうか。資料では、産業構造や従業者の視点、若年の子育て世代の視点などはあるが、学生の視点というものも検討の材料として加えていただけるとよい。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・確かに学生という視点は持っていなかった。どのようにできるか検討させていただきたい。

## 7. その他

(事務局：古谷政策・自治基本条例担当課長)

- ・次回会議は平成 27 年 7 月 23 日 (木) 10 時～12 時となる。
- ・次回会議では資料 7 でお示しいたいくつかの視点を中心に、しごと、定住に関する方向性を事務局から提案し、それらについて議論をお願いしたい。
- ・今後、各機関の皆さまと個別に相談させていただくこともあろうかと思うのでご協力をお願いしたい。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・日産自動車株式会社との共同記者会見 (追加資料) について説明

15:30 開 会

(以上)